

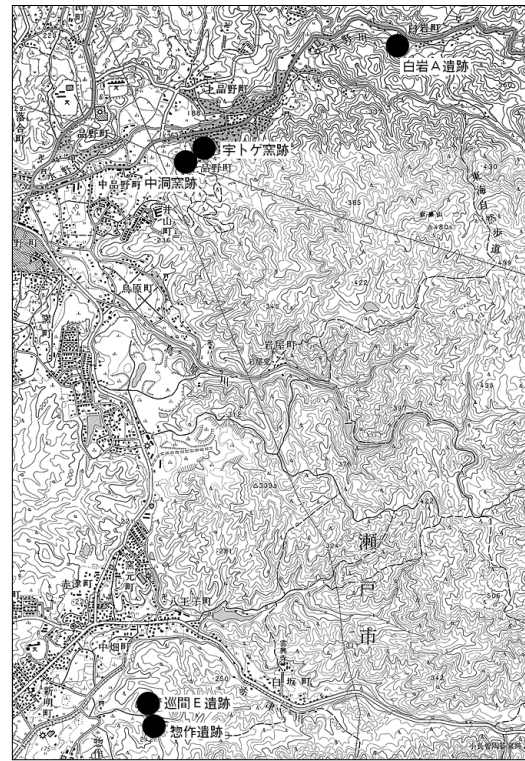
遺跡名 惣作遺跡  
 所在地 瀬戸市惣作町  
 調査理由 東海環状自動車道建設  
 調査期間 平成11年5月  
 調査面積 100 m<sup>2</sup>  
 担当者 北村和宏・魚住英史・川添和暁

遺跡名 巡間E窯跡  
 所在地 瀬戸市巡間町  
 調査理由 東海環状自動車道建設  
 調査期間 平成11年5月  
 調査面積 100 m<sup>2</sup>  
 担当者 北村和宏・魚住英史・川添和暁

遺跡名 中洞窯跡  
 所在地 瀬戸市上品野町  
 調査理由 東海環状自動車道建設  
 調査期間 平成12年3月  
 調査面積 100 m<sup>2</sup>  
 担当者 北村和宏・魚住英史・織部匡久

遺跡名 宇トゲ窯跡  
 所在地 瀬戸市上品野町  
 調査理由 東海環状自動車道建設  
 調査期間 平成12年3月  
 調査面積 100 m<sup>2</sup>  
 担当者 北村和宏・魚住英史・織部匡久

遺跡名 白岩A遺跡  
 所在地 瀬戸市上品野町  
 調査理由 東海環状自動車道建設  
 調査期間 平成12年3月  
 調査面積 100 m<sup>2</sup>  
 担当者 北村和宏・魚住英史・織部匡久



調査地点 (1/2.5万「多治見・猿投山」)

#### 調査の経過・概要

東海環状自動車道建設にともなう事前調査として本年度は瀬戸市内において5箇所の遺跡の範囲確認調査を実施した。このうちの惣作遺跡および白岩A遺跡については、調査対象地内に遺跡は及んでいないことを確認した。巡間E窯跡は、赤津盆地を囲む丘陵の一角に位置する窯跡で、山茶椀・小皿と古瀬戸後期の製品を焼成した窯体2基および灰原を確認した。中洞窯跡および宇トゲ窯跡は品野盆地を囲む丘陵内に所在する古瀬戸窯で、両者は丘陵の稜線の挟んで南側と北側に位置している。ともに調査に際しては、事前に磁気探査を行ない、あらかじめ窯体の

推定位置を把握した上で、テストトレンチを設定するという方法で範囲確認調査を行なった。調査の結果、中洞窯跡では、古瀬戸中期の窯体1基と灰原の広がりを確認した。宇トゲ窯跡では、灰原の一部が対象地内に展開するにとどまり、窯体は用地外に位置することが明らかになった。出土遺物から古瀬戸後期の古瀬戸専焼窯とみられる。

(北村和宏)